

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300661		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホームうぐいす		
所在地	岡山県津山市瓜生原331		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://pref.okayama.jp/page/detail-7669.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和4年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春には桜やこぶし、秋には木々の紅葉、豊かな自然に囲まれ、四季折々の季節を感じて頂きながら、入居者が自分らしく生活して頂けるように日々の支援に努めています。玄関に入った先には広いホールがあり、入居者がゆったりとした時間を過ごされています。日課のラジオ体操・広いホールをを使っての歩行訓練、お手伝いや興味のある事へ参加して頂き、穏やかに暮らしておられます。朝・昼・晩と三食手作りの食事を提供、行事の時には気分を変え、にぎり寿司を食べて頂いたり、皆で焼きそば・お好み焼きを作ったり、食べる楽しみを感じて頂いております。コロナ感染拡大にて状況をみでの支援ですが、ドライブ・外食・買い物など、屋外へ出向く支援にも努めています。入居者様ひとり一人の思いを大切に、寄り添い・共感の姿勢で支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者一人ひとりの生活歴に寄り添い、自分らしい暮らしの実践に努めています。より多くの入居者の「笑顔が見たい」、あらゆる場面で一瞬でも「楽しい時を過ごして貰いたい」と、共同空間づくりや、食事、外出を含めさまざまな工夫と柔軟な対応を心掛けています。又、家族、地域、母体の社会福祉法人の協力も得ながら、地域に根差したグループホームとして取り組んでいる様子が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. 0
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内のよく見える場所、玄関入り口に掲げて職員全員が理念を共有し実践に努力している。 ミーティングや、日々の話し合いの中で支援に繋がるよう努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた、具体的な分かりやすい理念で、職員はそれらを共有し日々の支援に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあい祭りや、同事業所が主催する納涼祭などの参加予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大にて中止となり、交流が出来なかった。	コロナ禍地域行事などは中止となり、事業所自体が地域の一員として交流する事は難しい中、近隣の住民とは屋外散歩の折り、田畑の作物の成長を一緒に見守り会話するなど、出来る事をするよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様の面会時やお手紙で利用者様の生活状況をお話したり、利用申し込み時などに、ホームでの支援をお話する中で、認知症を理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上にむけ、運営推進会議での話題、要望を検討し、利用者の状況報告・日常生活の様子や行事等、スライドショー観賞を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大にて一回しか開催できず、開催出来なかった期間を含め報告を行った。	長引くコロナ禍で開催できないで終るのではなく、運営推進会議に出席してくださる、行政・地域住民などに書面での報告・意見交換を行い、サービス向上に活かすよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が主催する研修会に参加。コロナ禍の為、運営推進会議中止となり市の担当者との密な連絡は出来なかったが、報告事項などは行っていた。課題など職員間で検討し、サービスの向上に努めている。	事業所の実情や日々の支援での取り組みを伝えながら、協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での研修会・2ヶ月に一回ミーティングで話し合ったり、新人研修も行い職員全員が正しく認識するよう日々努力し話し合い等を行っている。日中は玄関、窓を解放している。屋外に出られる方には一緒に付き添っている。	声かけによる、行動の規制がないかなど職員間で注意しながら日々の支援に努めています。また、屋外に出たい方には、その意図を理解し安全を確認しながら気持ちに寄り添うようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での研修会・2ヶ月に一回ミーティングで話し合ったり、外部の研修会に参加・報告を行い、職員全員が理解し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、ホーム内での研修会・ミーティング等で話し合い、職員全員が理解できるようにしている。当方では現在必要とされる方はいないが、今後必要な方が入れば活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に説明し同意を得ている。また契約内容に変更があれば再度同意の取り直しもしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口・ご意見箱の設置を行っている。面会時、電話連絡時、行事参加等に、日常の様子を家族にお話し相談をしながら行っている。入居者からは、日々の会話から聴く努力をしている。	コロナ禍ゆくりコミュニケーションをとることも難しい中、入居者家族へは手書きの「お便り」を添え、ホームでの生活ぶりを報告するなど家族から意見を貰えるように取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時やミーティングで意見、提案を聴き、話し合いを行い、反映させている。	管理者は日々の支援の中から気付いたとき、気軽に意見や提案が出せる環境に努め、職員が気持ちよく働けるよう反映に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、各事業所会議にて、日頃の努力や、具体的な実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう配慮、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修会へ参加したり、新入社員には新人研修も行うようにしている。各自の向上心と、資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や包括の勉強会に参加し、交流を行いながら、ネットワークづくり・資質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には、これまでの生活状況、介護情報等把握し要望を聞いている。又、入所前にホーム見学して頂き、関係作りに努め、安心して来て頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの様子を電話連絡したり、相談にのるなど努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に何を望まれているか、当サービスを利用することが適切かどうか検討させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に合わせた日常生活を職員と共に過ごしている。普段の会話から、昔からの伝統や風習などを教えて頂きながら、お手伝いをして頂いたり懐かしい話題に盛り上がり、関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に時間をとっていただき、ご家族と一緒に時間を大切に頂く。又、面会時や電話等で日頃の様子・状態を細かくお伝えし把握して頂く事によって、ご本人を近くに感じて頂けるよう関係を育み、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、友人等の面会時にはゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。お正月、お盆などに自宅へ日帰りや外泊され、家族の時間を過ごされる方もいる。又、ドライブの時、久しぶりにご自宅へ寄って頂くこともある。	コロナ禍でいろいろ制限がある中、状況を見て密にならないよう感染予防の工夫をしながら関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は殆どの方がホールで過ごされ、互いに馴染みの関係となり、コミュニケーションが出来るよう工夫している。気の合う入居者同士の席には配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には情報提供を行い、退所後、可能であれば面会を行ったり、様子をお聞きしたりしている。又、退所後ご家族様より相談があれば、お気持ちに寄り添いフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努めている。言葉で聴くと「だいじょうぶ・なんでもない・ええ・わからん」とニーズの把握は難しいが、日々の関わりの中での様子、表情から汲み取るよう努力している。	ニーズの把握が難しい中、残された力を活かせるよう、一人ひとりの「出来た」という実感・達成感を感じられる支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面会時の聞き取りと、ご家族からの情報は職員間で共有しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動、行動、表情等でひとり一人を把握し理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング等で、職員間の意見交換、ケアの統一まで話し合う。介護計画の作成にあたり、希望等お聞きしている。又、電話や面会時に日常の様子をご家族にお話しし、思いを汲み取り要望に繋げられるよう努めている。	日々の支援、記録の積み重ね等、又職員の意見、医師・看護師の意見を交えて現状に即した介護計画の作成に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや医療に関する情報を共有している。又、気づきや実践、ご本人の言葉を介護記録に具体的に記入する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人ご家族の状況に合わせて出来る限り支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として3ヶ月に一回の理容サービスを活用している。運営推進会議開催は一回しか開催できなかったが、市担当、地域の役員の方など参加して頂き、周辺地域の支援に関する情報を伺い協力を築くようにする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療関係の往診体制を整えており、月2回往診、何かあれば相談し対応して頂いている。通院は原則としてホームですが、家族の協力を得て支援している。	協力医・訪問看護など、定期的に往診があり、かかりつけ医を受診する場合は、普段の様子など情報提供をし、適切な医療を受けられるように支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が2週間に一度来られる。情報や状況変化を伝え相談して適切な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、随時、連絡を取り合っている。退院に向けて、ご家族・病院の相談員からの回復状況を提供して頂き速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については契約時説明して同意を得ている。必要に応じて、ご家族と話し合いの場をもうけ、出来ることを説明しながら本人が穏やかに過ごせるよう努めている。	状況が変われば、家族の意向も変わるの で、その都度医師・看護師の意見を交えて家族と本人が安心して過ごせるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや事例を基に勉強会や初期対応の訓練を行い緊急時に備えている。緊急時に備え持ち出しファイルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回(火災・地震)実施。市の緊急伝達訓練(防災ラジオ放送)も訓練に活用している。近隣の法人関連事業所、地域の消防の方とも連絡体制が整っている。職員間で共有している。	コロナ禍での訓練として、コロナ感染者が居るという状況や、車が使えないなどあらゆる場面を想定して訓練に取り組んでいる様子が窺えます。	今後も引き続きあらゆる場面を想定した訓練を続け、問題提起しながらそれらを一一つ解決していかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれが、我が身にふりかえて考え、尊厳をきずつけないよう、声かけ、行動が行えるよう努めている。	本人らしさが活かせるように生活歴を踏まえたうえ、一人ひとりの人格を尊重し、言葉や声掛けなど状況に合わせた対応を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる環境に努め、意思表示できにくい方には、表情や仕草を読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の状態に合わせた対応を心がけている。ご本人の体調を尋ねたり、希望を聞き、ご本人のペースを大切に過ごされるよう環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好み、意向を会わせて衣服の選択、整容等、介助支援を行っている。自己決定できにくい方には、着やすい、好きな色やお似合いになるものを考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買って来た四季折々の野菜、果物等、いろんな話に花が咲き、楽しめるようにしている。又、野菜の筋とり、玉葱の皮むき等、出来ることへの工夫も行っている。	一人ひとりの嚥下状態にあわせ、食欲がそられ食事を楽しむことの出来る支援に取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度チェックしている。ひとり一人の状態にあった食事形態にしている(刻み食・トロミ)。お茶の時間は水分が摂取出来るように種類を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけ・見守りをし、出来ない方には出来ないところを支援する等、ひとり一人に合わせた口腔ケアをしている。義歯洗浄も定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け把握に努め、プライバシーに配慮しながら支援している。又、それぞれの方のサイン・タイミングを伺いながら、トイレ誘導・排泄を促している。日中はほとんど失敗なくすむ方もいる。	排泄の自立はそれぞれ個々に状況が異なっており、不安なく気持ちよく過ごせるよう自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、繊維質の多い食材、乳製品等を摂取できるように努めている。排泄チェック表記入し、Drと相談し排便コントロールを行っている。ホールを歩くなど支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴することができ、その日の体調や希望に合わせて支援している。入浴を嫌がられた時には声をかけを工夫したり、タイミングをみながら対応している。冬場には刺激の少ない入浴剤を使用し乾燥を防いだり、冬至には柚子湯で季節・香りを楽しんで頂いている。	高齢者にとって、入浴は体力のいることなので、一人ひとり体調に合わせて、入浴を楽しむことができる支援の工夫を施しながら支援に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態把握し、休息を取り入れた日中の活性化を行い、安眠できるよう工夫している。何度も起きてこられる方にはコミュニケーションを図り室温調節も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬が解るように、ファイルに薬の説明書を綴じて、職員が見ることが出来るようにしている。職員間で、服薬支援、状態の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌をうたったり、絵や作品づくり等の支援、自分の役割と感じ、生き活きと暮らして頂けるよう、洗濯物干し・洗濯物たたみ等、個々の力に合った事を一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大状況をみながらドライブ・外食支援を行っている。周辺の四季折々が楽しめ、散歩や日光浴で気分転換して頂いている。ドライブの時にご本人に伺い、久しぶりにご自宅に立ち寄る機会も設けている。	感染拡大状況をみながら、密にならないよう換気に気を付けるなど感染対策をしたうえで、外出支援に取り組んでいます。	コロナが終息したら、入居者の楽しみとしている日帰り旅行を再開されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身体的状況により関心がみられない、お金の価値感が解らない、買い物は職員に委ねる等で日常的にはできない状態である。買い物に同行された時、支払いを促すこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があり、ご家族の都合がよければ対応している。又、ご家族・ホームからの電話の際、お話しできるように支援している。ご家族からハガキが届いたり、職員が手伝いながら年賀状を作成しご家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールなどに観葉植物や花を飾り、目を楽しませている。壁には行事ごとの作品や掲示物を飾ることで季節感や適度な刺激をだしている。広いホールを自由に行動できている。	お風呂・トイレなどを明記して、入居者が迷うことのないよう表示しています。季節の童謡の歌詞も掲示していて、入居者がそれを口ずさむ場面もあり、居心地よく暮らせるよう工夫に取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールのソファは、ほぼ座る場所が決まっている。新型コロナウイルス感染拡大にて、クリアボードを使用したり、ソーシャルディスタンスを保ちながら、入居者様同士の馴染みの関係で落ち着いて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドアには名前を掲げ、自分の部屋を確認出来るよう目印にしている。ご家族やご自分の写真を飾り、装飾品、小物等、持参する事で、ドアを開けると自分の部屋だと思われるよう工夫している。	一人ひとりの大切にしている物に囲まれ、安全で居心地よく過ごせる工夫に取り組んでいる様子が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドア、トイレ等に解りやすく表示されている。身体の状態に合わせて、自分の力をいかして動けるように工夫している。		